



株式会社アインファーマシーズ

AIN PHARMACIEZ

第37期事業報告書

平成17年5月1日～平成18年4月30日

Financial Report

あなたの元気に一生懸命でいたい。

アイングループ

261 店舗

全国に広がるネットワーク



ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は、当社に温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第37期（平成17年5月1日から平成18年4月30日まで）の決算が終了いたしましたので、ここに営業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社グループは、積極的な出店活動及びM&Aにより、調剤薬局とドラッグストアの事業拡大を進め、期末における店舗総数は261店舗となり、売上高、当期純利益ともに前年比30%を超える決算となりました。

今後におきましても、当社グループ一丸となり、企業価値の向上に努めてまいり所存でございますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 **大谷 喜一**

Q | 今期の業績はいかがでしたか。

**医** 薬事業（調剤薬局事業）は、医薬分業の伸張とともに、積極的な出店活動とM&Aを継続し、スケールメリットによる優位性を活かした事業展開を基本方針としています。

今期から、株式会社アインメディカルシステムズ、株式会社リジョイス、株式会社リジョイス薬局が本格的にグループ会社として連結業績に加わり、平成18年4月には山形県を中心に調剤薬局チェーンを展開する、株式会社ダムファールマ及びメディカルハートランド株式会社を子会社化するなど当社グループの基盤強化を着実に進めてまいりました。

物販事業（ドラッグストア事業）におきましても、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」を、コスメティックのセレクトショップというストアコンセプトにより、他のドラッグストアとの差別化を明確にするとともに、全国の主要都市に積極的に出店いたしました。

以上により、当社グループの業績は売上高763億3百万円（前年同期比33.7%増）となり6年連続の増収を達成したものの、処方せんの投与日数の長期化に伴う利益率の低下や、「アインズ&トルペ」の新規出店によるコスト増加などの理由から、経常利益30億1千2百万円（同2.2%減）と前年を下回る結果となりました。なお、当期純利益は12億1千5百万円（同30.7%増）となり、1株当たり当期純利益も104円53銭（同30.8%増）となりました。

Q | 医薬事業の展開についてどのようにお考えですか。

**調** 剤薬局を取り巻く事業環境は、国の医療費削減政策により、平成18年4月の医療費改定において調剤報酬の引下げが行われ、中でも公定薬価は平均で6.7%引下げられるなど、大変厳しい状況となっています。

このような事業環境のなか、当社グループは、引き続き新規出店及びM&Aを積極的に行うことにより事業拡大を進めるとともに、PhAIN System\*（ファインシステム）のような、当社グループ独自の調剤システムの開発、導入をさらに進め、調剤業務における安全性の向上のみならず、業務コストを低減し、収益の拡大を進めます。

また、質の高いサービスをすべての患者さまに提供できるよう、教育研修及び社内における情報伝達体制をより一層充実させ、薬剤師をはじめとしたスタッフのレベルアップに努めます。

ジェネリック薬品専門の医薬品卸会社株式会社ホールセールスターズ、薬剤師の派遣、紹介を行う株式会社アインスタッフと連携し、当社グループとして総合的に医療ビジネスに携わることにより、調剤薬局業界における優位性を高めてまいります。

\*PDA（Personal Digital Assistance）など最新の機器を装備した調剤過誤防止システムの総称

Q ジェネリック薬品への対策は  
どのようにお考えですか。

平成18年4月から処方せんの様式が変更され、調剤薬局において後発医薬品への調剤変更が可能となりました。このことから、今後ジェネリック薬品の大幅な需要拡大が予想されます。そこで、当社グループでは平成18年4月、株式会社ホールセールスターズという卸会社を設立いたしました。この会社は、国内で唯一、ジェネリック薬品専門の医薬品卸としてメーカーを問わずフルラインの体制により販売を行うものです。当面は、当社グループへのジェネリック薬品の販売を予定しておりますが、ゆくゆくは他の調剤薬局や病院等へも取引を拡大していきたいと考えております。

この会社の設立により、当社グループにジェネリック薬品を安定して供給できることはもちろん、ジェネリック薬品メーカーと直接取引をすることによって、仕入コストの低減等につながり、医薬事業における収益の向上に寄与するものと考えております。

今後、ジェネリック薬品の普及とともに、間違いなく当社グループの重要な位置を占める事業に成長するものとして、本格稼働に向け早急に体制整備を進めております。

Q 物販事業の展開について  
どのようにお考えですか。

物販事業は、首都圏を中心に新店活動を行い、都市型ドラッグストア「アイズ&トルペ」の全国都市部への展開を拡大いたします。

洗練された店舗デザイン、化粧品を中心とした幅広い品揃えなど、他のドラッグストアとは一線を画したコンセプトにより最新の流行を発信、提案するショップとして独自性を追求していきます。さらに、オリジナルブランドの開発や商品化、さまざまなメディアとのタイアップなどにより、メインターゲットであるファッション性が高い女性へのアピールを強化いたします。

また、本部機能の大部分を東京に移すことにより商品調達力を強化し、コスメティックに関する幅広い品揃えの店舗展開を進めると同時に、人材育成にも力を入れ、店舗スタッフの教育、研修制度の充実化を図り、商品知識及び接客面においてプロフェッショナルな人材を育成していきます。

本年6月に開店した「アイズ&トルペ カテプリ新さっぽろ店」では、目的に応じて売り場を1つのブースにするなど、「アイズ&トルペ」は常にお客様のニーズに応えるべく新たなチャレンジを続け、さらなる進化を目指してまいります。

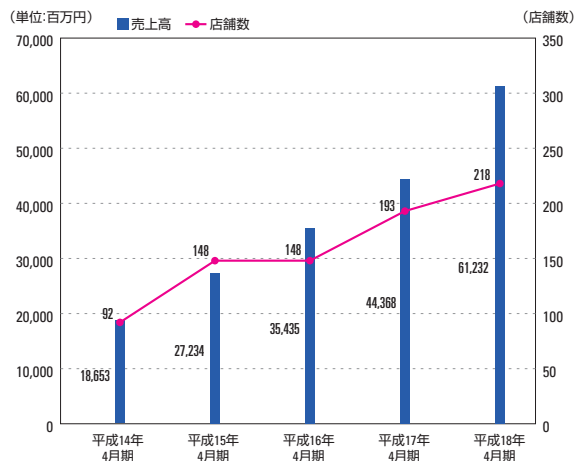
## Q 来期の業績について お聞かせください。

**平**成18年4月の薬価改定及び調剤報酬の引下げによる影響を織り込み、当社グループの来期の業績は、連結では売上高832億5千万円（前年同期比9.1%増）、経常利益25億円（同17.0%減）、当期純利益は11億円（同9.5%減）となり、当社単体では売上高542億8千5百万円（同6.2%増）、経常利益15億円（同23.5%減）、当期純利益7億円（同24.3%減）と、増収ながらも減益となる見通しです。

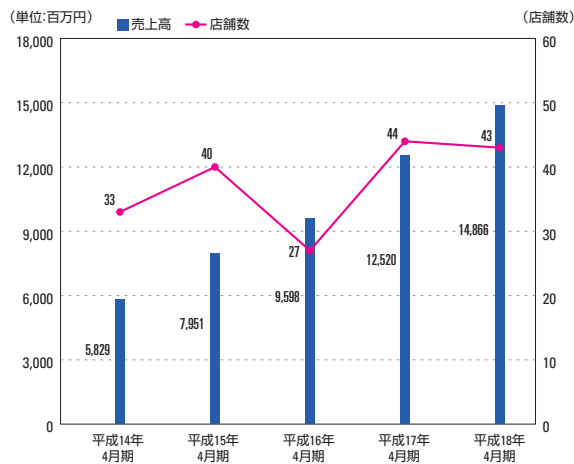
しかしながら、当社グループでは新規出店による規模拡大や、経営の効率化を図ることにより、この厳しい状況に対応するための準備を着実に進めてまいりました。今後もこれまでと同様に、医薬事業、物販事業ともに積極的な出店活動及びM&Aによる事業規模の拡大を行っていくことで、当社グループの体制をさらに強化できると考えております。

業界全体が厳しい状況である今こそチャンスと捉え、当社グループ一丸となりさらなる発展を目指してまいります。

### 医薬事業売上高・店舗数の推移



### 物販事業売上高・店舗数の推移



## 医薬事業 pharmacy



今期は、当社グループ初となる九州地区への出店を果たすなど、広域にわたる営業開発を継続して行うとともに、本年4月には山形県を中心として調剤薬局チェーンを展開する株式会社ダムファールマ及びメディカルハートランド株式会社を子会社化するなど、新規出店及びM&Aを活用した事業規模の拡大を進めました。

また、薬局業務全体の見直しをプロジェクトとして行い、モデル店による検証を通じてコスト削減に取り組みました。このほか、株式会社ホールセールスターズの設立により、今後のジェネリック薬品の需要増加に対する体制を整備し、当社グループの強化を行ってまいりました。

今期は、新規出店及びM&Aによる33店舗の増加と8店舗の閉店または売却により、当社グループにおける稼動調剤薬局数は218店舗となりました。その結果、今期の業績は売上高612億3千2百万円（前年同期比38.0%増）、営業利益42億2千9百万円（同11.4%増）となりました。

## topics

すべての薬局で患者さまに安心してお薬を受け取っていただきたい。その思いから当社では調剤過誤ゼロを目指し、さまざまな調剤機器の開発を行っています。

今期は調剤過誤防止システム「PhAIN System」の導入を強力に推し進め、100店を超える配備の結果、ほぼ全店への導入が完了いたしました。（本年8月全店導入完了予定）

また、当社の安全性に対する取り組みや薬局運営のノウハウがすべて詰まった「調剤薬局運営パーフェクトマニュアル」が日経BP社より出版されました。この本の中では、患者さまの安全と心地よさを追求し続ける当社ならではの、長年の経験から培ってきた薬局運営のノウハウを公開しており、業界からも注目を集めています。



アイン薬局福住店

## A challenge to perfect safety

安全。それは私たちのすべて。

調剤薬局のリーディングカンパニーとして、安全な薬をお届けするために、薬剤師の教育とシステム化を徹底して進めています。

きめ細かく研修を行い、キャリアに相応しい知識と技術、そして人間性をもった人材を育てていきます。

大きなこと、小さなこと、ちょっと先のこと。

私たちは、安全につながることならすべてやります。

### 進化し続けるための教育・研修制度

私たちは、単に薬を調剤するだけではなく、患者さまとともに健康を願う存在であろうとしています。

薬剤師は薬のプロとして常に技術の習得と知識の向上に励むことはもちろん、患者さまへの思いやりをいつも心に、ひとつの笑顔で不安を和らげる存在になりたいと願っています。



年4回開催の薬局長会議



長期間の新人薬剤師研修

薬剤師という仕事に完成はありません。

さらなるレベルアップを図るためキャリアに応じた綿密な教育・研修制度を設けています。

新卒採用者には、研修センターでの長期間に及ぶ集合研修と、その後2年間のフォローアップ研修が義務づけられています。

また、薬局長には、年4回の薬局長会議が設けられ、本人の役割と時代の状況に対応した生涯教育が行われています。

### 先端技術を活用した調剤機器の導入

私たちは、日常業務を通じて安全を常に意識し、システム化を通じて、安全性を高めることに積極的な投資を行っています。

PhAIN System（ファインシステム）をはじめ、調剤機器メーカーとの共同開発により、最新のIT技術を活用したさまざまな調剤機器の導入を進めています。



PDAを利用した調剤



最新の調剤機器との連動

PhAIN Systemは、処方せんの情報をレセプトコンピューターから無線LANでPDAに情報を送り、錠剤、水剤の取り間違いがあれば警告を発してミスを防止する機能のほか、薬局内の調剤機器との連動により、粉薬の秤量誤りを防止する機能を持つ独自の調剤過誤防止システムです。

また、薬剤師の精神的負担軽減によりスムーズな業務の遂行をもたらす効果も発揮しています。

## 物販事業

drugstore



物販事業では、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」を主軸として、これまでのドラッグストアのイメージとは全く異なる「コスメティックのセレクトショップ」というコンセプトにもとづいた店舗展開を進めております。

2002年10月に第1号店であるアインズ&トルペ地下街店を札幌にオープンして以来、原宿、名古屋、大阪など大都市への新規出店を積極的に行い、「アインズ&トルペ」のブランド化を目指してまいりました。

今期は神戸、川口、自由が丘に新規出店をし、直営店舗総数は郊外型店の「アインズ」を含め30店舗となりました。連結子会社である株式会社アイン東海の13店舗を加えると、当社グループの総数は43店舗になります。

また、既存店舗においても改装を行うことにより集客力の向上に努めてまいりました。その結果、売上高は148億6千6百万円（前年同期比18.7%増）となりましたが、新店のプロモーション期間に要するコストを売上で吸収しきれず、営業損失2億7千万円（同1億8千6百万円増）となりました。

## topics

本年4月に、バイヤー部門、店舗開発部門など事業部の大部分を東京都新宿区に集中させ、商品開発部を新設するなど機能強化を進めてまいりました。

また、2001年にスタートした「アインズポイントクラブカード」は、季節にあわせた商品のご案内や購買額に応じたポイント還元などを通じて、「アインズ」または「アインズ&トルペ」をより快適に利用していただけるよう心がけた結果、5年目となる今期に会員数が100万人を突破しました。

このことを契機として「アインズ&トルペ」のさらなる拡大と進化とともにお客様が心地よくショッピングを楽しめるよう、商品ディスプレイ、プロモーション活動など常に新しい取り組みを続けます。



アインズ&トルペ / 原宿クエスト店



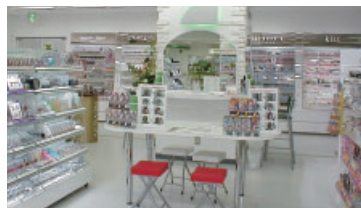


## Individuality

### 誰にも似ていないという誇り

からだの内と外、両方のキレイを自由に試して、選んで、比べて。お客さまがじっくりお気に入りを探しながら、よりよいアドバイスを受けられる環境をお届けしたい。そうした思いからコスメティックのセレクトショップ「アインズ&トルペ」は誕生しました。

必要なものが買えればいいだけのドラッグストアから、お洒落で居心地のよいセレクトショップへ。



アインズ&トルペ / 地下街店



アインズ&トルペ / ララスクエア宇都宮店



アインズ&トルペ / 自由が丘店

## Progressively

### アインズ&トルペのさらなる進化

アインズ&トルペに“完成”はありません。あたらしいことを次々と作り出し、さらなる進化を続けていきます。

6月に開店した「アインズ&トルペ カテプリ新さっぽろ店」では、「からだの中から美しくなる」をテーマとしたビューティーケアカウンター「inner beauty by SSP」、化粧品ブランドごとにスキンケアコーナーを設置するなど、あたらしい取り組みにより、お客さまひとりひとりに美容に関するトータルな提案をしています。



アインズ&トルペ ベストセクション



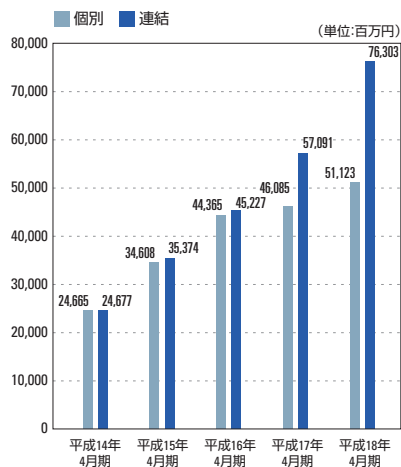
inner beauty by SSP\*



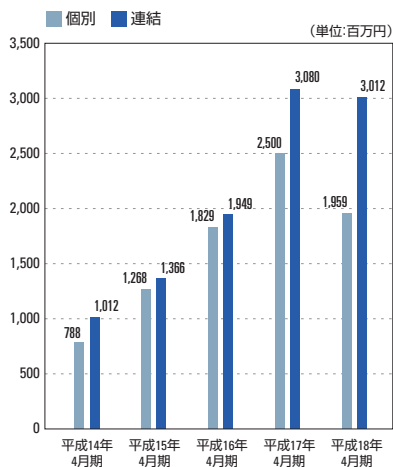
スキンケアカウンセリングコーナー

\* エスエス製薬株式会社との美白をテーマとしたコラボレーション

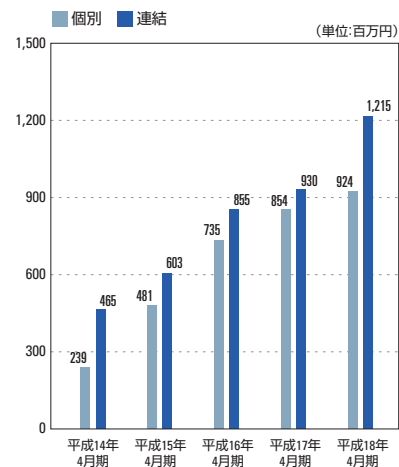
### 売上高



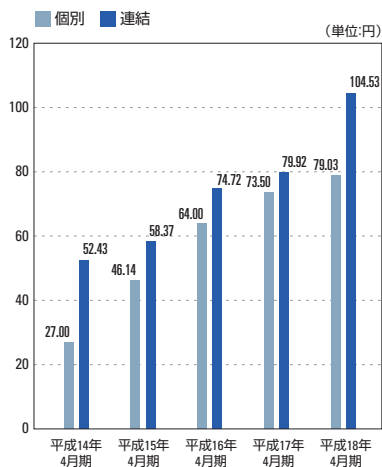
### 経常利益



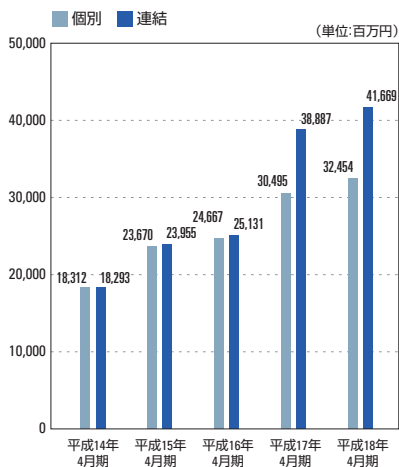
### 当期純利益



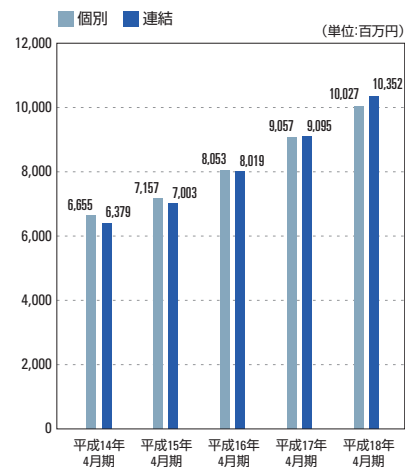
### 1株当たり当期純利益



### 総資産



### 純資産



■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成17年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成18年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	18,166	18,216
固定資産	20,721	23,452
有形固定資産	7,706	8,330
無形固定資産	4,789	6,230
投資その他の資産	8,226	8,891
資産合計	38,887	41,669
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	23,194	23,849
固定負債	5,846	6,985
負債合計	29,041	30,835
<b>(少数株主持分)</b>		
少数株主持分	750	482
<b>(資本の部)</b>		
資本金	3,319	3,384
資本剰余金	3,438	3,504
利益剰余金	2,136	3,143
その他有価証券評価差額金	204	324
自己株式	△ 3	△ 3
資本合計	9,095	10,352
負債、少数株主持分及び資本合計	38,887	41,669

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成16年5月1日から 平成17年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)
売上高	57,091	76,303
売上原価	48,985	66,074
販売費及び一般管理費	5,230	7,145
営業利益	2,875	3,083
営業外収益	395	184
営業外費用	190	256
経常利益	3,080	3,012
特別利益	182	352
特別損失	1,368	710
税金等調整前当期純利益	1,894	2,653
法人税、住民税及び事業税	996	1,320
法人税等調整額	△ 121	△ 57
少数株主利益	88	174
当期純利益	930	1,215

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成16年5月1日から 平成17年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,849	3,623
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,359	△ 4,351
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,279	664
現金及び現金同等物の減少額	△ 1,230	△ 64
現金及び現金同等物の期首残高	3,491	3,132
新規連結子会社の現金及び現金同等物の増加高	871	—
現金及び現金同等物の期末残高	3,132	3,068

■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第36期 (平成17年4月30日現在)	第37期(当期) (平成18年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	12,752	11,634
固定資産	17,742	20,819
有形固定資産	5,290	5,591
無形固定資産	241	297
投資その他の資産	12,211	14,930
資産合計	30,495	32,454
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	16,486	16,381
固定負債	4,950	6,045
負債合計	21,437	22,426
<b>(資本の部)</b>		
資本金	3,319	3,384
資本剰余金	3,438	3,504
利益剰余金	2,098	2,817
その他有価証券評価差額金	204	324
自己株式	△ 3	△ 3
資本合計	9,057	10,027
負債・資本合計	30,495	32,454

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第36期 (平成16年5月1日から 平成17年4月30日まで)	第37期(当期) (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)
売上高	46,085	51,123
売上原価	39,447	43,654
販売費及び一般管理費	4,274	5,493
営業利益	2,363	1,975
営業外収益	277	175
営業外費用	140	191
経常利益	2,500	1,959
特別利益	342	281
特別損失	1,242	536
税引前当期純利益	1,600	1,704
法人税、住民税及び事業税	829	876
法人税等調整額	△ 83	△ 96
当期純利益	854	924
前期繰越利益	644	1,093
当期末処分利益	1,498	2,017

■ 利益処分

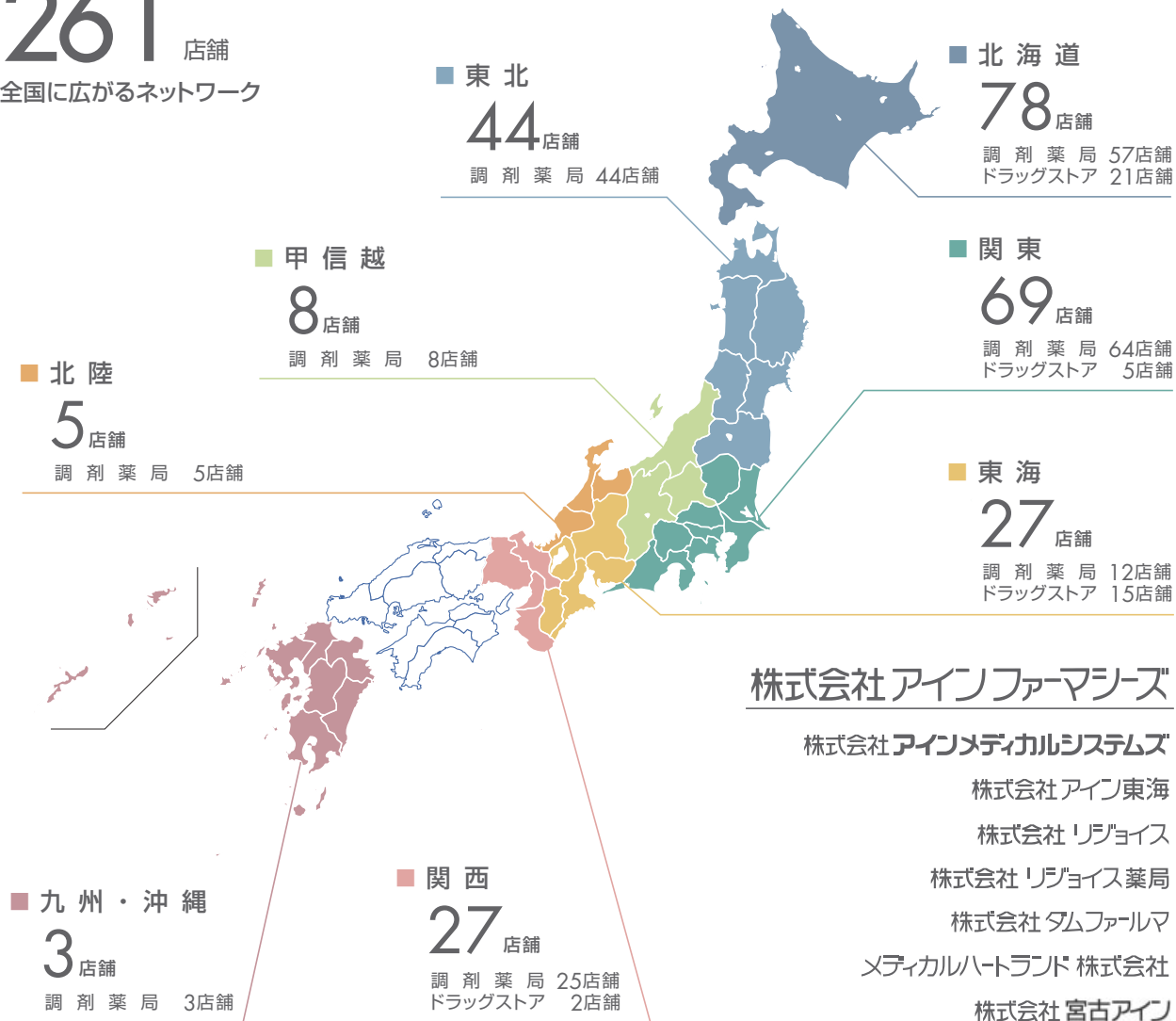
(単位：百万円)

科目	第36期	第37期(当期)
当期末処分利益	1,498	2,017
利益処分量	405	437
配当金	168	203
(1株当たり配当金)	(15円)	(18円)
役員賞与金	37	34
任意積立金	200	200
次期繰越利益	1,093	1,580

アイングループ

261 店舗

全国に広がるネットワーク



**商 号** 株式会社アインファーマシーズ  
**本 社** 札幌市東区東苗穂5条1丁目2番1号  
 TEL (011) 783-0189 (代表)

**設 立** 昭和44年8月

**資 本 金** 33億8,457万円  
 (2006年4月30日現在)

**従 業 員** 1,684名(連結) 1,017名(単体)

**事 業 内 容**  
 ・調剤薬局チェーン  
   アイン薬局  
   今川薬局  
 ・ドラッグストアチェーン  
   アインズ  
   アインズ&トルペ

**グループ企業**  
 株式会社アインメディカルシステムズ  
 株式会社アイン東海  
 株式会社リジョイス  
 株式会社リジョイス薬局  
 株式会社ダムファールマ  
 メディカルハートランド株式会社  
 株式会社宮古アイン  
 株式会社アインエイド  
 株式会社ナイスアイン  
 株式会社ホールセールスターズ  
 株式会社アインスタッフ  
 株式会社メディウエル

**主要取引銀行**  
 株式会社北海道銀行  
 株式会社三菱東京UFJ銀行  
 株式会社北洋銀行  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 株式会社みずほ銀行  
 みずほ信託銀行株式会社

**役 員 構 成**

代表取締役会長	今 川 美 明
代表取締役社長	大 谷 喜 一
代表取締役副社長	南 雲 正
専務取締役	加 藤 博 美
専務取締役	川 井 淳 一
常務取締役	首 藤 正 一
常務取締役	水 島 利 英
常務取締役	栗 林 政 博
取 締 役	須 崎 道 男
取 締 役	平 田 靖 史
取 締 役	三 上 弘
取 締 役	宇 野 功 二
取 締 役	土 居 由 有 子
取 締 役	佐 藤 讓 治
取 締 役	水 野 勝
常勤監査役	高 橋 一 俊
監 査 役	加 清 準
監 査 役	井 須 孝 誠
監 査 役	石 橋 雄 哉

(平成18年7月28日現在)

発行する株式の総数 ..... 44,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 11,306,456株

(注) 第1回新株引受権及び第2回新株引受権並びに新株予約権の行使により発行済株式の総数は  
 93,700株増加いたしました。

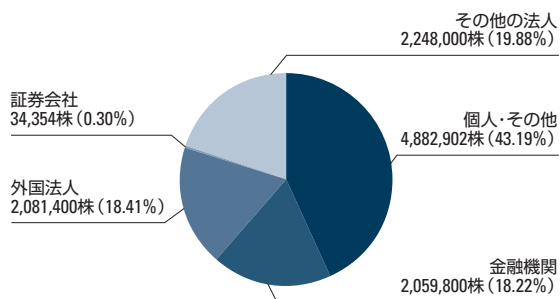
株主数 ..... 2,080名  
 (前期末比824名増)

大株主 (上位10名)

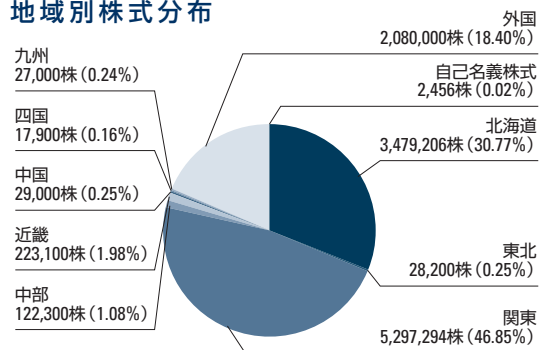
株 主 名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持 株 数	議決権比率	持 株 数	出資比率
大 谷 喜 一	1,894,200	16.76	—	—
丸 紅 株 式 会 社	1,640,000	14.51	—	—
今 川 美 明	1,240,600	10.97	—	—
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	652,700	5.77	—	—
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	455,300	4.03	—	—
株 式 会 社 北 海 道 銀 行	396,000	3.50	(注)	(注)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	375,700	3.32	—	—
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505019	270,400	2.39	—	—
ザチェスマンハッタンバンクエヌアイロンドノエスエルコムアカウント	209,100	1.85	—	—
杏 林 製 薬 株 式 会 社	200,000	1.77	—	—

(注) 当社は株式会社北海道銀行の持株会社である株式会社ほくほくフィナンシャルグループの普通株式1,103,400株  
 (出資比率0.09%)、優先株式400,000株 (議決権なし) を所有しております。

所有者別株式分布



地域別株式分布



## 株 主 メ モ

---

事業年度	5月1日から翌年4月30日
定時株主総会	毎年7月
基準日	毎年4月30日 その他、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
(電話お問合せ)	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法	電子公告により行います。(http://www.ainj.co.jp/ ただし電子公告によることができない事由、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。